Take your time
自分の時間を生きて
人と自分を大事にし
一歩ずつ前へ進む

帯山中 progress

おびぷろ

不定期発行

文責
熊本市立帯山中学校
教頭(公認心理師)　田中慎一朗
tanaka.shinichiro@
city.kumamoto.lg.jp

本気でやった 後悔には意味がある

今でこそ出現回数は減りましたが、大人になってからもしばらく夢に出てくる場面が、私にはありました。

『マークをかわし相手ゴール前におどり出た私。そこに味方から絶好のパスが回ってきます。目の前にはキーパー1人だけ。決めれば同点ゴールです。残り3秒。私は渾身のシュートを放ちます。ボールはキーパー正面。簡単に受け止められて前半終了。』この夢を何度も見るのです。実際の試合は、その後じりじりと点差が開き、私たちの高校は2回戦敗退となりました。舞台はインターハイで相手は前年度優勝校でした。

私は高校時代、水球部に入っていました。何もかもを犠牲にして打ち込んだといっても過言ではありません。部員みんなで「負けたら何も残らない。だから勝つしかない。」を合言葉にしていました。私の部は全国大会から7年間遠のいており、まずは全国出場を目標にがんばっていました。同級生である3年生は3名のみ、創部以来最弱と先輩方に言われながらも、目標達成を目指しました。それが、念願叶って7年ぶりに全国の舞台に立つことが出来たのです。

目標を達成して後悔なんてないはずだと周りの人は思うでしょう。でも、2回戦で負けたことが大人になって夢に出てくるくらい悔しいのです。相手は前年度優勝校でしたが、ノーマークでシュートを決められなかった自分が許せないのです。どんなに周りから励まされても、シュートを外した場面は私には忘れられない後悔です。

「あの時ああしとけばよかった…」と思うことは、人生にはたくさんあります。今、後悔して落ち込んでいる人に伝えたいのですが、この先も後悔することはたくさんあります。しかし、それはダメな人生ではありません。本気でやったからこそ、後悔が生まれているのです。インターハイに行けた私、前年度優勝校に前半互角に戦った私、周りから見ればそれで満足なはずです。それなのに夢にまで出てくる後悔。それは、私の本気度の証です。そういった後悔は、その人の人生にとって意味があります。

大人になってインターハイの夢を見るたび私は思いました。「もう水球をしていないのでシュートを打つことは出来ない。でも、仕事の場面で最高のパスが回ってくる瞬間が必ずある。その時私は絶対に外さない。」私の仕事に対する姿勢の一つは、実はこの高校時代の後悔から来ています。人生に失敗はありません。本気でやった後の後悔には意味がある。胸を張って私が約束します。

ぼちぼちいこう

little by little

小学校には、1年間半そで半ズボン姿の子がいませんか？それ私です('◇')ゞ「薄着は風邪ひかない！」という親の言葉を真に受けて、5年間半袖半ズボン裸足で小学校に通っていました。ところが6年生の冬に、いとこから偶然お下がりでもらった長袖カッターシャツをもらいました。着たらとてもあたたかく、靴下とスクールセーターなしでは学校に通えなくなってしまいました。▼さて、そんな小学時代の卒業式。3月にしては寒い日で、靴下もセーターも着ていたのですが、朝から雨が降って靴や靴下がぐちょぐちょになってしまいました。気持ち悪いので、靴下を脱ぎ裸足でステージに上がった私。着物で来ていた母親が式後に「どうしてそんな恰好で式に出ていたの！！」と叱ります。▼いや、お母さんも知ってると思うけど雨が降ったんだよ…「それで？（怒）」と母親。だから、濡れた靴下が気持ち悪いから脱いだ…「そうじゃなくて、どうしてそんな恰好で卒業式に出てるの！！！！（怒）」▼だぁ～かぁ～らぁ～　雨でびちょびちょになったんだって！　気持ち悪いから脱いだの！！！「そんなことは聞いていない！！（母怒）」　いやぁ"(-""-)"　大人ってまじでよーわからん…（雨が降っていた→濡れた→靴下気持ち悪い→脱いだ）ってこんなに分かりやすく説明しているのにいいいい(T_T)　と思った卒業式の思い出です。▼母親が言っていた意味が今となっては分かりますが、当時の私には何を言っているのだろうと不思議で仕方がありませんでした。最近ふと思うのです。自分が思っていたり感じていたりすることが、何もしないのに相手に伝わっているとすれば、それはラッキーで当り前ではない… 伝えたいことがあるのなら、伝わる努力をしなくてはなりません。友達との揉め事も親子げんかもきっと、気持ちを伝える大切な練習の場なのかもしませんね。